見本

プロジェクト・
アプローチで生まれる
子ども主体の保育

SDGsと保育スタートBOOK

つながる保育で実践する幼児期のESD

青木一永・社会福祉法人檸檬会［編著］

みらい

見本

もくじ

はじめに　「SDGs×保育」はつながる保育でうまくいく …… 3

第Ⅰ部　知っておきたい基本の知識

第1章　SDGsとはなにか　10

1. いま世界でなにが起きているか？ …… 10
   - ❶驚異的な人口増加　10
   - ❷たくさんの動植物の絶滅　11
   - ❸ますます進む地球温暖化　11
   - ❹厳しい環境で暮らす人々　11
   - ❺自然資源の消費　12
2. SDGsとは？ …… 13
   - ❶なぜSDGsなのか　13
   - ❷SDGsで目指すもの　14
   - ❸SDGsで示されている17のゴール　15
   - ❹SDGsを5つのPで捉える　17
3. なぜ保育がSDGsと関係があるのか？ …… 19
   - ❶思いの根っこを育む乳幼児期　19
   - ❷大切なのは「どのように進めるか」　20

第2章　ESDとはなにか　21

1. 教育はSDGs達成の鍵を握る …… 21
2. SDGsとESD …… 23
3. 乳幼児期から始まるESD …… 24
4. ESDではなにを育むのか？ …… 26
   - ❶持続可能な社会づくりに関わる課題　26
   - ❷課題を解決するために必要な能力・態度　27

見本

第3章 幼児期のESDとはなにか 29

1. 保育におけるSDGs・ESDの問題点 …… 29
2. ESDはこれまでの保育となにが違うのか …… 30
   - ❶ESDのわかりづらさ 30
   - ❷大切なのはコミュニティづくり 30
   - ❸「教える」から「ともに学ぶパートナーシップ」へ 31
3. 子どもの「参画」とはなにか …… 33
   - ❶「参加」と「参画」の違い 33
   - ❷子どもの「参画」が高まるようデザインする 34
   - ❸形だけの「参画」に要注意 36
   - ❹子どもは権利を持っている 37
4. つながろうとする態度を育み、つながりの中で育てる …… 38
   - ❶ともに探究する共同体 38
   - ❷環境との関わりを深める 38
   - ❸ESDにおける保育者のあり方の重要性 40

第Ⅱ部 SDGsにつながる実践事例

第4章 幼児期のESDとしての実践事例 42

PROJECT 1 ほうれん草をつくりたい …… 43
レイモンド西淀保育園 4歳児クラス（大阪市西淀川区）

PROJECT 2 商店街との関わりとお店屋さんごっこ …… 56
レイモンド鳥越保育園 5歳児クラス（東京都台東区）

PROJECT 3 自分たちが住んでいる街って？ …… 68
レイモンド南蒲田保育園 5歳児クラス（東京都大田区）

PROJECT 4 お米づくりプロジェクト …… 80
放課後児童クラブ 太陽の子 小学1〜4年生（和歌山県紀の川市）

見本

第Ⅲ部　実践のヒント ―プロジェクト・アプローチでつながろう―

第5章　幼児期のESDにおいて求められる保育者のあり方　92

1. 「体験」から「経験」へ …… 92
2. より深く関われるよう保育をデザインする …… 93
3. 保育者に求められる4つのポイント …… 95

ポイント1　もの・こととの出会いを豊かにする　95
ポイント2　ひと・場所との出会いを豊かにする　98
ポイント3　子どもの思考・態度を育む　99
ポイント4　子どもとともに探究する　101

第6章　幼児期のESDを進めるための実践ヒント　103

1. つながる保育で実践する幼児期のESD …… 104

❶つながる保育は3ステップで捉えよう　104
❷つながる保育の大まかな歩み方　105
❸きっちり分けなくても大丈夫　106

2. つながる保育の実践ヒント …… 107

❶サークルタイム　108
❷計画ウェブマップ　111
❸オープンクエスチョン　120
❹環境づくり　122
❺様々な方法での探究　130
❻家庭との連携　132
❼ゲストの招待　133
❽フィールドワーク　135
❾振り返りとしての表現　136

おわりに …… 139

執筆者紹介　141
引用・参考文献　142

見本

第Ⅰ部

知っておきたい基本の知識

いま様々な場所でSDGsの文字を目にします。
「SDGsとはなにか？」を考える前に、
世界で今なにが起きているのか考えてみましょう。
そして、SDGsの成功の鍵を握っているESDについて
学んでいきましょう。

見本

第1章

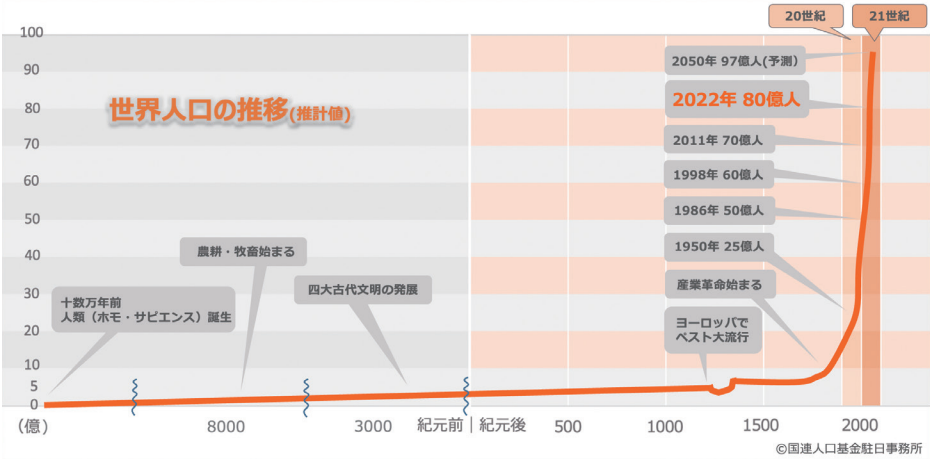
SDGsとはなにか

1. いま世界でなにが起きているか？

❶ 驚異的な人口増加

図表1は十数万年前に地球上に人類が誕生してからの世界人口の推移を示していますが、これを見ると、この200～300年の間に人口が急激に増加していることがわかります。つまり、地球の面積は変わらないのに、地球で暮らす人類は急増し、かつてない速さや量で様々な資源を消費しているということで

図表1　人類誕生から2050年までの世界人口の推移（推計値）



出典：国連人口基金 駐日事務所
https://tokyo.unfpa.org/ja/resources/%E8%B3%87%E6%96%99%E3%83%BB%E7%B5%B1%E8%A8%88

見本

第Ⅱ部

SDGsにつながる実践事例

本書では、幼児期のESDを、持続可能性の実現に向かう
コミュニティづくりとして提言しています。
第II部では、そうした幼児期のESDとしての実践事例を
紹介していきます。

見本

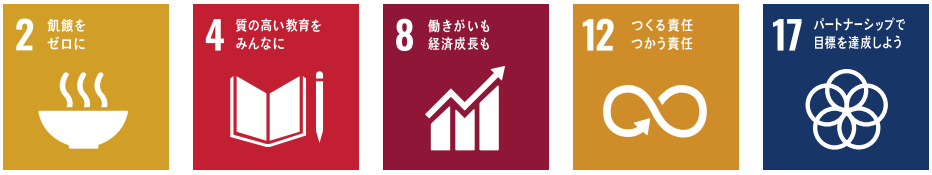
PROJECT 1

レイモンド西淀保育園
鶴田聖奈

ほうれん草をつくりたい

対象：4歳児　人数：23名　期間：2021年6月～2月末（約9か月）

レイモンド西淀保育園（大阪市西淀川区）担任：鶴田聖奈、石井不二恵（園長）



プロジェクト概要

子どもたちがねぎのにおいや野菜のタネの有無に興味を持って試行錯誤する中で、タネから野菜を育ててみたいということになりました。いろんなタネをまいてみるもののうまくいかず、タネまきには適した時期があることを知った子どもたちは、農家さんに話を聞いてみることにしました。その結果、今はほうれん草のタネまきが適していることがわかり、子どもたちのほうれん草栽培が始まりました。子どもたちは、教えてくれた農家さんにほうれん草を送りたいという思いを持ちながら、栽培活動を進めていきました。

第１段階　テーマやトピックを見つける・決める

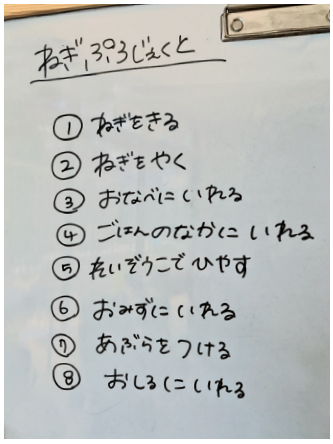
きっかけは野菜の絵本

水耕栽培をやってみたい

今回のプロジェクトの芽生えは、３歳児の冬に子どもたちが興味を持った『野菜は生きている』（藤田智監修、岩間史朗写真　ひさかたチャイルド）という絵本でした。その絵本には水耕栽培のことが書かれていて、野菜の切れ端や根っこか

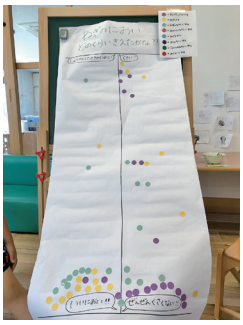
見本

「このねぎくっさ！」



ねぎのにおいを消すアイデア

焼いたねぎのにおいを調べる


ねぎのにおいをグラフ化

ら新たに芽が出て、どんどん成長していく野菜の写真がたくさん載っていました。その絵本を見て、自分たちも「やってみたい！」と興味を持っていたため、給食室から様々な野菜の根っこをもらい、野菜の水耕栽培を行ってみることにしました。じゃがいも、にんじん、こまつななど、様々な野菜の水耕栽培を行っていく中で、特に生長が見られたねぎを土に植え替え、育てていくことにしたのです。子どもたちは４歳児になっても、「土に入れたらもっと大きくなるんかな？」と期待感を膨らませながら、ねぎの栽培を続けていました。

ねぎのにおいを消すプロジェクト

４歳児の夏のある日、ぐんぐん育っていたねぎの先が折れ曲がっていることに気づいた子どもたち。「かわいそうだからもう抜いてあげよう」という意見が出たため、みんなで収穫することにしました。根の土を落として水洗いしているとき、子どもたちがあることに気づきました。「このねぎくっさ！」。ねぎ特有の強いにおいに子どもたちが大騒ぎし、何度も何度もねぎのにおいを確かめました。

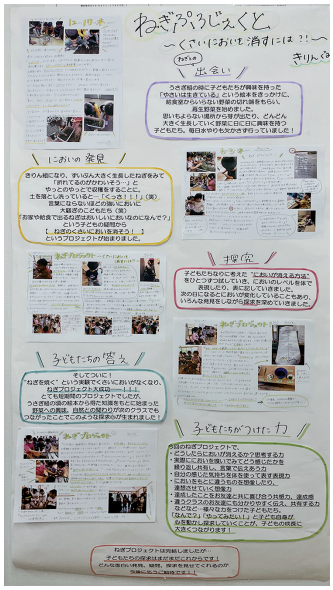
そんな子どもたちの様子を見ていた私は、サークルタイムで「どうしたらこのねぎのにおいが消えるのかな」と問いかけてみました。すると、子どもたちから、ねぎを「切る」「焼く」「鍋に入れる」「ご飯のなかに入れる」「冷蔵庫で冷やす」「水に入れる」「油をつける」「お味噌汁のなかに入れる」といったアイデアが出てきて、「くさいにおいをいいにおいに変えたい！」という探究心から、ねぎのに

見本

おいを消すプロジェクトがスタートしたのです。

まずは、子どもたちから出た様々なアイデアを実際にやってみました。ねぎを水や油に浸してみたり、切ってみたり、焼いてみたりしました。そして、そのように実験したねぎを並べたり、においを比べてみたりして、感じたにおいを目で見て感じ取れるよう、グラフで表しました。また、保育室の一角に設けたプロジェクトコーナーに実験結果をまとめると、子どもたちはその周辺で様々に対話する様子が見られました。そのようにして子どもたちが満場一致で導き出した結論は、「焼いたねぎはくさくない！」というものでした。

このねぎのにおいを消すプロジェクトは、1週間ほど盛り上がったのですが、その様子をドキュメンテーションにまとめ、保護者とも共有しました。



ねぎのにおいを消すプロジェクトのドキュメンテーション

ねぎのにおいを消すプロジェクトコーナー

タネへの好奇心

私は、子どもたちの興味・関心が、食べ物や料理に広がっていくとよいなと思い、野菜スタンプの活動を行いました。その際、「先生、ねぎにはタネがないのに、なんでオクラにはタネがあるん？」という声が聞かれました。

たくさんねぎを観察したことで生まれた新たな疑問について、サークルタイムで話し合ってみました。子どもたちから「ピーマンにはタネがある」「きゅうりにはないと思う」などと、タネの有無について話が広がり、たくさんの野菜の名前があがってきました。そこで、「それぞれお家にある野菜で調べてきて、教え合おう」ということになりました。その後、子どもたちが調べてきたこと

パプリカのタネを取る

見本

第Ⅲ部

実践のヒント

―プロジェクト・アプローチでつながろう―

ここからは、保育の場におけるESD推進のあり方について
具体的に考えていきます。
第5章で、保育者のあり方を解説し、
第6章では、実践のあり方を説明します。

見本

第5章

幼児期のESDにおいて求められる保育者のあり方

1.「体験」から「経験」へ

ESDを保育実践に取り入れるにあたってまず押さえておきたいのは、子どもはなにによって育つかという点です。子どもは「経験」することによって育っていきます。やみくもにいろいろなことをしてもそれらは単なる「体験」であり、「経験」になるわけではありません。というのも、「経験」は「体験」での気づきや学びを自分の中に取り入れたものだからです。

色への関わりを豊かにする環境構成の一例

「体験」が「経験」となるためには、活動のプロセスが充実していることや、活動の振り返りが重要になります。それらが豊かであるからこそ、子ども自身が考え、試行錯誤し、知識や知恵として「経験」化されていくのです。

ですので、ESDにおいても、子どもたちと「ひと・もの・こと・場所」との出会いや、そこでの関わり方を豊かにデザインしていくことが重要になるといえるでしょう。

見本

水に興味を持ってマンホールを探す姿

神社で絵馬を購入する様子

「ひと」との出会いとは、異年齢や異世代、異なる立場など、自分とは異なる人々との関わりのことです。「もの・こと」との出会いとは、たとえば、動植物との関わりや、リサイクル活動や人権、ジェンダーの問題といったことが考えられます。「場所」との出会いは、地域や公共の場など、園の外の世界に関わることを指します。つまり、保育活動に保護者や地域の人が関わったり、子どもが商店街に出かけていったりなど、今まで関わったことのないような人や場所とも関わったりして、活動を深めていくということです。これは、地域に開かれた保育を意味しています。こうした「ひと・もの・こと・場所」との出会いや関わりをデザインする際は、保育者の意図を大切にしつつも、子どもが自ら出会ったかのようにファシリテートしていくのが理想です。

2. より深く関われるよう保育をデザインする

一方で、こうした「ひと・もの・こと・場所」との出会いをつくることだけに注力してしまうと、「〇〇という活動をすればよい」「異世代と交流すればよい」「商店街に行けばよい」という活動ベースの保育になってしまうおそれがあります。

ここで大切になるのは、そうしたテーマにどのように向き合うのかという思考・態度の視点です。キーワードになるのは、熟考、再考、尊重、参画、主

見本

執筆者紹介

■青木一永（あおき かずなが）

社会福祉法人檸檬会　副理事長／大阪総合保育大学非常勤講師／紀の川市総合計画審議会委員／紀の川市子ども子育て会議委員／プロコーチ／博士（教育学）／保育士

1977年、岐阜県下呂市生まれ、和歌山市在住。大学卒業後、国家公務員として勤務。その後、社会福祉法人檸檬会に入職し、園長職等を経て現職。園長時代に大学院に通い始め、2019年博士学位を取得。2015年日本乳幼児教育学会新人賞受賞。大学院では、裁量の多い中で保育者がどのように保育活動を構想しているのかに焦点を当て研究し、そこで得られた知見を保育者育成に活かしている。

現在は、副理事長として全国約80施設の運営や職員育成を行うほか、大学非常勤講師として学生指導、研修講師、講演活動、海外の保育者育成を行っている。また、プロコーチとして保育園園長や経営者等のコーチングを行っている。

第Ⅱ部　実践報告

■鶴田聖奈（つるた せな）（レイモンド西淀保育園）
■濱谷恵里（はまたに えり）（レイモンド鳥越保育園）
■石井沙織（いしい さおり）（レイモンド南蒲田保育園）
■曽我部裕規（そかべ ひろき）（放課後児童クラブ太陽の子）

社会福祉法人檸檬会

福祉・教育を中心に、全国でおよそ80施設を運営する社会福祉法人。レイモンド保育園やれもんのこ保育園（小規模保育園）、Kid's&More（企業主導型保育園・学童施設）、レモネードキッズ（児童発達支援事業）のほか、障がい者支援施設を運営。

「カラフルな○△□が凹凸（こせい ひずみ）のある世界で跳動するソーシャル・インクルージョンの実現」というヴィジョンのもと、「なんだろうのその先へ」を合言葉に、子どもにとっても大人にとっても主体的で対話的、そして深い学びのある探究的な保育を目指している。

〒649-6432　和歌山県紀の川市古和田240　TEL：0736-79-7313

本書の感想をぜひ以下までお寄せください。
kazu.a@lemonkai.or.jp